

2021 年度

青山学院大学系属  
浦和ルーテル学院小中高等学校

学校評価報告書

2022 年 6 月 20 日

浦和ルーテル学院学校評価委員会

## 【目次】

- 1 2021年度青山学院大学系属浦和ルーテル学院学校評価実施要領及び  
評価委員会設置要綱
  - 1. 学校評価実施の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・＜1＞
  - 2. 評価委員会設置要綱・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・＜2、3＞
    - (1) 評価委員会の組織図
    - (2) 各委員会の役割
    - (3) 2021年度学校評価各委員会一覧
  - 3. 自己評価アンケート目の設定基準・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・＜3＞
  - 4. 2021年度自己評価アンケート調査項目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・＜4＞
  - 5. 自己評価アンケート調査結果の処理方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・＜5＞
- 2 自己評価アンケート集計結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・＜6～8＞
- 3 学校評価アンケートの結果考察
- 4 改善への対策

# 1 2021 年度青山学院大学系属浦和ルーテル学院学校評価実施要領及び 評価委員会設置要綱

2021, 2, 18 学校評価委員会

## 1、学校評価実施の趣旨

2007 年（平成 19 年）6 月の学校教育法改正、同 10 月の学校教育法施行規則改正により自己評価、学校関係者評価の実施・公表、評価結果の設置者への報告に関する規定が新たに設けられ、2008 年 4 月より実施が義務付けられました。その目的について文部科学省では次の 3 点を挙げています。

- ① 各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定しその状況や達成に向けた取り組みの適切さ等について評価することにより学校として組織的、継続的な改善を図ること。
- ② 各学校が、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。
- ③ 各学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

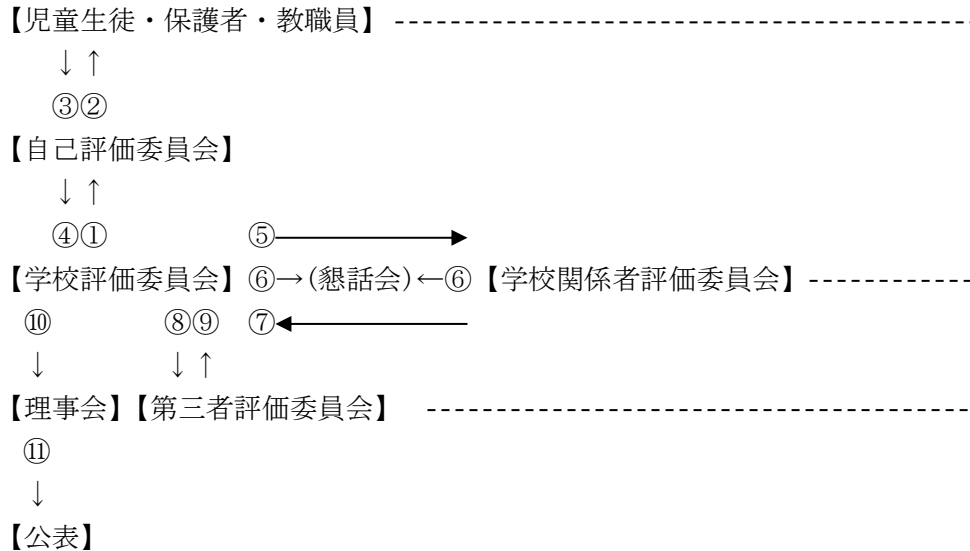
私立学校では上記 3 点を含め、あらゆる分野において改善・向上を目指し、組織的・継続的に努力を重ねています。私立学校の「建学の精神」とその実現を目指す日々の実践は常に厳しい評価にさらされています。すなわち存続そのものが評価であり、絶えざる改善・向上の取り組みなくして存続はありえません。学院では内外の評価委員の忌憚のない評価をもとに、学院の教育活動の長短の現状を検証し、より良い教育活動の実現に結びつけることが大切と考えます。

## ※ 学校評価のスケジュール

- |     |  |
|-----|--|
| 3 月 | 児童生徒・保護者・教師学校評価アンケート調査   |
| 4 月 | 集計<br>学校評価委員会がアンケート調査結果を学校関係者評価委員会へ提出<br>第 1 回評価委員懇話会開催（PTA 四役のみ実施）<br>中間報告書作成 |
| 5 月 | 学校評価委員会より理事会へ中間報告  |
| 6 月 | 学校関係者評価委員による報告書作成及び学校評価委員会へ提出<br>第 2 回評価委員懇話会<br>第三者評価委員による評価報告書作成及び学校評価委員会へ提出 |
| 8 月 | 公表   |

## 2、評価委員会設置要綱

### (1) 評価委員会の組織図



### (2) 各委員会の役割（文中の①～⑪は組織図の数字に対応する）

#### i 学校評価委員会

校長（委員長）、教頭（副委員長）、以下学校運営委員会のメンバー11名により構成され、自己評価委員会、学校関係者評価委員会、第三者評価委員会及び懇話会の職務内容を決め次の職務を遂行する。

- ①④ 自己評価委員会へ評価資料の収集を依頼する。
- ⑤ 自己評価委員会の評価資料を基に報告書を作成し学校関係者評価委員会へ提出する。
- ⑥ その後懇話会を開催し学校関係者評価委員会へ資料を提供する。
- ⑦⑧ 学校関係者評価委員会の報告を受けて第三者評価委員会へ提出し評価を依頼する。
- ⑨⑩⑪ 第三者評価委員会の報告を受けて理事会へ報告し、公表する。

#### ii 自己評価委員会

学校評価委員で構成し、委員長を教頭、副委員長を各部長とする。各部の部長は副部長と共に小中高の連携をとり、その部を中心に次の職務を遂行する。校務分掌主任及び教科主任はこれを補佐する。

- ② 学校評価委員会の計画を受けてアンケート調査等を実施する。
- ③ 調査結果を集計し委員長へ提出する。事務長を中心に財務等の自己評価報告書を作成し委員長へ提出する。
- ④ 委員長は集計結果を受けて各部の自己評価報告書を作成、学校評価委員会へ提出。

#### iii 学校関係者評価委員会

PTA 四役より1名、評議員より1名、同窓会役員より1名で構成し、次の職務を遂行する。

- ⑤⑥⑦ 学校評価委員会作成の自己評価報告書を精査し、懇話会を経て学校関係者評価委員会報告書を取りまとめそれを学校評価委員会へ提出する。（必要に応じて授業参観、意見聴取、アンケート調査等を行なう）

#### iv 第三者評価委員会

第三者により構成し（1人でも可）、次の職務を遂行する。

- ⑧⑨ 学校評価委員会より最終報告を受け精査し、これを学校評価委員会へ提出する。

(3) 2021年度学校評価各委員会一覧

委員会	構成委員
i 学校評価委員会	福島宏政校長（委員長）、近藤秀明初等部教頭（副委員長） 増田諭中高等部教頭（副委員長）、栗原清一郎理事長、 後藤里志初等部長、高木敏光中高等部長、海老原弘枝初等部副部長、 石井道子中高等部副部長、長谷川久教務部長、今村基洋国際教育部長、 斉藤義和事務長
ii 自己評価委員会	近藤秀明初等部教頭（委員長）、増田諭中高等部教頭（委員長） 後藤里志初等部長（副委員長）、高木敏光中高等部長（副委員長） 栗原清一郎理事長、福島宏政校長、海老原弘枝初等部副部長、石井道子 中高等部副部長、長谷川久教務部長、今村基洋国際教育部長、斉藤義和 事務長
iii 学校関係者評価委員会	P T A役員6名

### 3、自己評価アンケート項目の設定基準

- (1) 「自己評価アンケートは網羅的で細かなチェックを行なうのではなく、重点化された目標を設定し精選して実施するものである」という文部科学省通達の趣旨に従いアンケート項目を設定した。
- (2) 「目指す学校像」、「学習」、「生活」、「行事」の4分野に対する意識調査を19の項目にわたって調査する。今年度は、昨年度に準じる設問とする。
- (3) 学院の建学の精神、教育ビジョン、目指すべき人間像は以下のようになっている。
- |          |  |
|----------|--|
| 建学の精神    | ・神と人とを愛する人間、神と人々に愛される人間。   |
| 教育ビジョン   | ・神を愛し、神に愛される者として、周りの人に思いやりをもって行動し、自らも幸せに生きる人間を育てる。<br>・神を愛し、神に愛される者として、自分の能力を発展させ、自分らしく成長する人間を育てる。       |
| 目指すべき人間像 | ・創造的な思考を身につけ、自分自身の考えを持ち、いかに学ぶべきかを学ぶ人間。<br>・アクティブで良識ある国際人として、ますますAIが普及し国際化が進む中であって、隣人と共に平和な時代を創り、共に生きる人間。 |

#### 4、2021年度自己評価アンケート調査項目

##### ◎ 児童生徒用（5～11年）・保護者用（1～11年）

- 1、現在の（お子様）の学年
- 2、現在の（お子様）のクラス
- 3、Ⅰ〔A〕 建学の精神、教育ビジョン、ギフト教育等、学院の根幹を成す指導全般
- 4、Ⅰ〔B〕 学院の学習指導への取り組み
- 5、Ⅰ〔C〕 学院の人格教育への取り組み
- 6、Ⅰ〔D〕 学院の行事全般への取り組み
- 7、Ⅱ 意見等を聞き取る機会の提供
- 8、Ⅲ 学院の児童生徒、保護者及び外部に対する情報公開
- 9、Ⅳ 学院の防犯、防災、安全管理への対策
- 10、Ⅴ 学院の特徴について、12年一貫教育のメリットが生かされた活動
- 11、Ⅵ〔A〕 分かりやすく学習習慣がしっかり身に付く授業
- 12、Ⅵ〔B〕 教材やテキスト等が工夫され、学力向上への環境整備
- 13、Ⅶ〔A〕 教師の親身になった教育相談
- 14、Ⅶ〔B〕 基本的生活習慣が身に付く生活指導
- 15、Ⅷ ICT機器を活用した授業
- 16、Ⅸ 学院に対するご意見、ご要望等

##### ◎教員用（初等部、中等部、高等部）

- 1、現在、担当している部
- 2、Ⅰ〔A〕 学院の建学の精神、教育ビジョン、ギフト教育等、学院の根幹を成す指導全般
- 3、Ⅰ〔B〕 学院の学習指導への取り組み
- 4、Ⅰ〔C〕 学院の人格教育への取り組み
- 5、Ⅰ〔D〕 学院の行事全般への取り組み
- 6、Ⅱ 意見等を聞き取る機会を作っている
- 7、Ⅲ 学院の児童生徒、保護者及び外部に対する情報公開
- 8、Ⅳ 学院の防犯、防災、安全管理への対策
- 9、Ⅴ 12年一貫教育のメリットを生かす取り組み
- 10、Ⅵ〔A〕 （自分の授業について）分かりやすく学習習慣がしっかり身に付く授業
- 11、Ⅵ〔B〕 （自分の授業について）教材やテキストなどが工夫され、学力向上への環境整備
- 12、Ⅶ〔A〕 学院の親身になった教育相談
- 13、Ⅶ〔B〕 学院の基本的生活習慣が身に付く生活指導
- 14、Ⅷ ICT機器を活用した授業
- 15、Ⅸ 学院に対するご意見、ご要望等

※全ての設問は、以下の4択で回答

- ・大いに満足している      ・まずまず満足      ・やや不満である      ・大いに不満である

## 5、自己評価アンケート調査結果の処理方法

※Ⅰ～Ⅷについて「大いに満足している」～「大いに不満である」をポイント化して満足度を数値化している。

- |                  |                   |
|------------------|-------------------|
| (1) 大いに満足している…3点 | (2) まずまず満足している…2点 |
| (3) やや不満である…1点   | (4) 大いに不満である…0点   |

<回答総数12名の場合>

例1 (1) 12人 (2) 0人 (3) 0人 (4) 0人  
 $(3 \text{点} \times 12 \text{人}) + (2 \text{点} \times 0 \text{人}) + (1 \text{点} \times 0 \text{人}) + (0 \text{点} \times 0 \text{人}) = 36 \text{点}$   
 $36 \div (3 \text{点} \times 12 \text{人}) \times 100 = 100 \text{ポイント}$

例2 (1) 6人 (2) 6人 (3) 0人 (4) 0人  
 $(3 \text{点} \times 6 \text{人}) + (2 \text{点} \times 6 \text{人}) + (1 \text{点} \times 0 \text{人}) + (0 \text{点} \times 0 \text{人}) = 30 \text{点}$   
 $30 \div (3 \text{点} \times 12 \text{人}) \times 100 \approx 83 \text{ポイント}$

例3 (1) 3人 (2) 3人 (3) 3人 (4) 3人  
 $(3 \text{点} \times 3 \text{人}) + (2 \text{点} \times 3 \text{人}) + (1 \text{点} \times 3 \text{人}) + (0 \text{点} \times 3 \text{人}) = 18 \text{点}$   
 $18 \div (3 \text{点} \times 12 \text{人}) \times 100 \approx 50 \text{ポイント}$

例4 (1) 0人 (2) 0人 (3) 6人 (4) 6人  
 $(3 \text{点} \times 0 \text{人}) + (2 \text{点} \times 0 \text{人}) + (1 \text{点} \times 6 \text{人}) + (0 \text{点} \times 6 \text{人}) = 6 \text{点}$   
 $6 \div (3 \text{点} \times 12 \text{人}) \times 100 \approx 17 \text{ポイント}$

全員が大いに満足していれば満点で100ポイントとなり、各項目が均衡していれば満足度50ポイント、全員が大いに不満なら0ポイントとなる。  
一般に満足度60ポイント以上で正常とされている。

## 2 学校評価アンケート集計結果

### 2021年度アンケート集計結果（児童生徒まとめ）

初等部児童（5・6年生 計104名）

（回答者 91 名）

質問	項目	(1)	%	(2)	%	(3)	%	(4)	%	ポイント
I A	建学の精神	29	31.9%	44	48.4%	12	13.2%	6	6.6%	68.5
I B	学習指導	28	30.8%	45	49.5%	13	14.3%	5	5.5%	68.5
I C	人格教育	23	25.3%	35	38.5%	26	28.6%	7	7.7%	60.4
I D	行事	34	37.4%	32	35.2%	14	15.4%	11	12.1%	65.9
II	意見聴取	15	16.5%	41	45.1%	22	24.2%	13	14.3%	54.6
III	情報公開	25	27.5%	39	42.9%	21	23.1%	6	6.6%	63.7
IV	安全対策	51	56.0%	31	34.1%	7	7.7%	2	2.2%	81.3
V	12年一貫メリット	30	33.0%	34	37.4%	18	19.8%	9	9.9%	64.5
VI (A)	授業が分かりやすい	25	27.5%	46	50.5%	17	18.7%	3	3.3%	67.4
VI (B)	教材やテキストの工夫	38	41.8%	40	44.0%	11	12.1%	2	2.2%	75.1
VII (A)	相談にのってくれる	30	33.0%	29	31.9%	23	25.3%	9	9.9%	62.6
VII (B)	生活指導	31	34.1%	43	47.3%	13	14.3%	4	4.4%	70.3
VIII	ICT	41	45.1%	29	31.9%	18	19.8%	3	3.3%	72.9

中等部生徒（7～9年生 計237名）

（回答者 194 名）

質問	項目	(1)	%	(2)	%	(3)	%	(4)	%	ポイント
I A	建学の精神	57	29.4%	102	52.6%	28	14.4%	7	3.6%	69.2
I B	学習指導	58	29.9%	108	55.7%	22	11.3%	6	3.1%	70.8
I C	人格教育	59	30.4%	91	46.9%	32	16.5%	12	6.2%	67.2
I D	行事	56	28.9%	72	37.1%	44	22.7%	22	11.3%	61.2
II	意見聴取	43	22.2%	76	39.2%	54	27.8%	21	10.8%	57.6
III	情報公開	50	25.8%	103	53.1%	33	17.0%	8	4.1%	66.8
IV	安全対策	68	35.1%	93	47.9%	26	13.4%	7	3.6%	71.5
V	12年一貫メリット	61	31.4%	82	42.3%	40	20.6%	11	5.7%	66.5
VI (A)	授業が分かりやすい	55	28.4%	107	55.2%	24	12.4%	8	4.1%	69.2
VI (B)	教材やテキストの工夫	59	30.4%	93	47.9%	35	18.0%	7	3.6%	68.4
VII (A)	相談にのってくれる	74	38.1%	78	40.2%	31	16.0%	11	5.7%	70.3
VII (B)	生活指導	60	30.9%	102	52.6%	24	12.4%	8	4.1%	70.1
VIII	ICT	60	30.9%	99	51.0%	20	10.3%	15	7.7%	68.4

高等部生徒（10・11年生 計149名）

（回答者 122 名）

質問	項目	(1)	%	(2)	%	(3)	%	(4)	%	ポイント
I A	建学の精神	32	26.2%	71	58.2%	14	11.5%	5	4.1%	68.9
I B	学習指導	33	27.0%	67	54.9%	16	13.1%	6	4.9%	68.0
I C	人格教育	40	32.8%	53	43.4%	20	16.4%	9	7.4%	67.2
I D	行事	17	13.9%	40	32.8%	36	29.5%	29	23.8%	45.6
II	意見聴取	18	14.8%	47	38.5%	43	35.2%	14	11.5%	52.2
III	情報公開	35	28.7%	61	50.0%	21	17.2%	5	4.1%	67.8
IV	安全対策	60	49.2%	48	39.3%	11	9.0%	3	2.5%	78.4
V	12年一貫メリット	36	29.5%	53	43.4%	25	20.5%	8	6.6%	65.3
VI (A)	学習習慣が身に付く授業が行われている	28	23.0%	67	54.9%	23	18.9%	4	3.3%	65.8
VI (B)	学力向上の環境が整っている	39	32.0%	65	53.3%	15	12.3%	3	2.5%	71.6
VII (A)	相談にのってくれる	62	50.8%	49	40.2%	7	5.7%	4	3.3%	79.5
VII (B)	生活指導	41	28.9%	79	55.6%	17	12.0%	5	3.5%	70.0
VIII	ICT	49	40.2%	54	44.3%	13	10.7%	6	4.9%	73.2



## 2021年度アンケート集計結果（保護者まとめ）

### 初等部保護者

（回答者 330 名）

質問	項目	(1)	%	(2)	%	(3)	%	(4)	%	ポイント
I A	建学の精神	187	56.7%	130	39.4%	12	3.6%	1	0.3%	84.1
I B	学習指導	155	47.0%	144	43.6%	30	9.1%	1	0.3%	79.1
I C	人格教育	180	54.5%	126	38.2%	20	6.1%	4	1.2%	82.0
I D	行事	132	40.0%	157	47.6%	40	12.1%	1	0.3%	75.8
II	意見聴取	118	35.8%	142	43.0%	65	19.7%	5	1.5%	71.0
III	情報公開	150	45.5%	148	44.8%	30	9.1%	2	0.6%	78.4
IV	安全対策	177	53.6%	133	40.3%	19	5.8%	1	0.3%	82.4
V	12年一貫メリット	131	39.7%	146	44.2%	49	14.8%	4	1.2%	74.1
VI (A)	授業が分かりやすい	160	48.5%	132	40.0%	34	10.3%	4	1.2%	78.6
VI (B)	教材やテキストの工夫	145	43.9%	141	42.7%	39	11.8%	5	1.5%	76.4
VII (A)	相談にのってくれる	217	65.8%	96	29.1%	13	3.9%	4	1.2%	86.5
VII (B)	生活指導	177	53.6%	137	41.5%	16	4.8%	0	0.0%	82.9
VIII	ICT	118	35.8%	160	48.5%	44	13.3%	8	2.4%	72.5

### 中等部保護者

（回答者 186 名）

質問	項目	(1)	%	(2)	%	(3)	%	(4)	%	ポイント
I A	建学の精神	67	36.0%	103	55.4%	12	6.5%	4	2.2%	75.1
I B	学習指導	38	20.4%	108	58.1%	38	20.4%	2	1.1%	65.9
I C	人格教育	60	32.3%	105	56.5%	15	8.1%	6	3.2%	72.6
I D	行事	39	21.0%	106	57.0%	38	20.4%	3	1.6%	65.8
II	意見聴取	41	22.0%	95	51.1%	43	23.1%	7	3.8%	63.8
III	情報公開	40	21.5%	120	64.5%	21	11.3%	5	2.7%	68.3
IV	安全対策	67	36.0%	105	56.5%	10	5.4%	4	2.2%	75.4
V	12年一貫メリット	40	21.5%	92	49.5%	44	23.7%	10	5.4%	62.4
VI (A)	授業が分かりやすい	30	16.1%	96	51.6%	54	29.0%	6	3.2%	60.2
VI (B)	教材やテキストの工夫	35	18.8%	97	52.2%	50	26.9%	4	2.2%	62.5
VII (A)	相談にのってくれる	78	41.9%	91	48.9%	13	7.0%	4	2.2%	76.9
VII (B)	生活指導	46	24.7%	130	69.9%	10	5.4%	0	0.0%	73.1
VIII	ICT	57	30.6%	99	53.2%	26	14.0%	4	2.2%	70.8

### 高等部保護者

（回答者 127 名）

質問	項目	(1)	%	(2)	%	(3)	%	(4)	%	ポイント
I A	建学の精神	40	31.5%	77	60.6%	8	6.3%	2	1.6%	74.0
I B	学習指導	25	19.7%	78	61.4%	21	16.5%	3	2.4%	66.1
I C	人格教育	45	35.4%	66	52.0%	14	11.0%	2	1.6%	73.8
I D	行事	22	17.3%	75	59.1%	22	17.3%	8	6.3%	62.5
II	意見聴取	28	22.0%	71	55.9%	21	16.5%	7	5.5%	64.8
III	情報公開	35	27.6%	68	53.5%	19	15.0%	5	3.9%	68.2
IV	安全対策	47	37.0%	72	56.7%	5	3.9%	3	2.4%	76.1
V	12年一貫メリット	25	19.7%	71	55.9%	26	20.5%	5	3.9%	63.8
VI (A)	授業が分かりやすい	27	21.3%	71	55.9%	27	21.3%	2	1.6%	65.6
VI (B)	教材やテキストの工夫	23	18.1%	74	58.3%	27	21.3%	3	2.4%	64.0
VII (A)	相談にのってくれる	61	48.0%	60	47.2%	6	4.7%	0	0.0%	81.1
VII (B)	生活指導	36	28.1%	79	61.7%	12	9.4%	1	0.8%	72.4
VIII	ICT	27	21.3%	76	59.8%	23	18.1%	1	0.8%	67.2

## 2021年度アンケート集計結果（教員まとめ）

初等部教師

(回答者 22 名)

質問	項目	(1)	%	(2)	%	(3)	%	(4)	%	ポイント
I A	建学の精神	4	18.2%	15	68.2%	3	13.6%	0	0.0%	68.2
I B	学習指導	2	9.1%	15	68.2%	4	18.2%	1	4.5%	60.6
I C	人格教育	4	18.2%	13	59.1%	5	22.7%	0	0.0%	65.2
I D	行事	4	18.2%	14	63.6%	4	18.2%	0	0.0%	66.7
II	意見聴取	3	13.6%	12	54.5%	5	22.7%	2	9.1%	57.6
III	情報公開	6	27.3%	12	54.5%	4	18.2%	0	0.0%	69.7
IV	安全対策	8	36.4%	9	40.9%	4	18.2%	1	4.5%	69.7
V	12年一貫メリット	1	4.5%	9	40.9%	12	54.5%	0	0.0%	50.0
VI (A)	授業が分かりやすい	3	13.6%	16	72.7%	2	9.1%	1	4.5%	65.2
VI (B)	教材やテキストの工夫	4	18.2%	12	54.5%	6	27.3%	0	0.0%	63.6
VII (A)	相談にのってくれる	7	31.8%	10	45.5%	5	22.7%	0	0.0%	69.7
VII (B)	生活指導	3	13.6%	10	45.5%	9	40.9%	0	0.0%	57.6
VIII	I C T	5	22.7%	14	63.6%	3	13.6%	0	0.0%	69.7

中等部教師

(回答者 18 名)

質問	項目	(1)	%	(2)	%	(3)	%	(4)	%	ポイント
I A	建学の精神	3	17.6%	12	70.6%	2	11.8%	0	0.0%	68.6
I B	学習指導	1	5.9%	10	58.8%	6	35.3%	0	0.0%	56.9
I C	人格教育	2	11.8%	12	70.6%	3	17.6%	0	0.0%	64.7
I D	行事	1	5.9%	10	58.8%	6	35.3%	0	0.0%	56.9
II	意見聴取	0	0.0%	9	52.9%	7	41.2%	1	5.9%	49.0
III	情報公開	1	5.9%	14	82.4%	1	5.9%	1	5.9%	62.7
IV	安全対策	4	23.5%	11	64.7%	2	11.8%	0	0.0%	70.6
V	12年一貫メリット	0	0.0%	11	64.7%	6	35.3%	0	0.0%	54.9
VI (A)	授業が分かりやすい	0	0.0%	14	82.4%	3	17.6%	0	0.0%	60.8
VI (B)	教材やテキストの工夫	1	5.9%	15	88.2%	1	5.9%	0	0.0%	66.7
VII (A)	相談にのってくれる	8	47.1%	8	47.1%	1	5.9%	0	0.0%	80.4
VII (B)	生活指導	1	5.9%	12	70.6%	4	23.5%	0	0.0%	60.8
VIII	I C T	2	11.8%	13	76.5%	2	11.8%	0	0.0%	66.7

高等部教師

(回答者 27 名)

質問	項目	(1)	%	(2)	%	(3)	%	(4)	%	ポイント
I A	建学の精神	3	11.1%	19	70.4%	4	14.8%	1	3.7%	63.0
I B	学習指導	1	3.7%	20	74.1%	4	14.8%	2	7.4%	58.0
I C	人格教育	4	14.8%	18	66.7%	4	14.8%	1	3.7%	64.2
I D	行事	4	14.8%	16	59.3%	6	22.2%	1	3.7%	61.7
II	意見聴取	2	7.4%	13	48.1%	7	25.9%	5	18.5%	48.1
III	情報公開	2	7.4%	17	63.0%	7	25.9%	1	3.7%	58.0
IV	安全対策	6	22.2%	17	63.0%	3	11.1%	1	3.7%	67.9
V	12年一貫メリット	0	0.0%	16	59.3%	9	33.3%	2	7.4%	50.6
VI (A)	学習習慣が身に付く授業が行われている	1	3.7%	20	74.1%	5	18.5%	1	3.7%	59.3
VI (B)	学力向上の環境が整っている	1	3.7%	18	66.7%	6	22.2%	2	7.4%	55.6
VII (A)	相談にのってくれる	9	33.3%	13	48.1%	4	14.8%	1	3.7%	70.4
VII (B)	生活指導	2	7.4%	17	63.0%	7	25.9%	1	3.7%	58.0
VIII	I C T	3	11.1%	18	66.7%	5	18.5%	1	3.7%	61.7

### 3 学校評価アンケート集計結果考察 ※文中の数値は適宜四捨五入して表記

2021年度の学校評価アンケートは昨年度と同様に Web 形式を採用、回答数は昨年度に比して増加した。一方で、アンケート実施時期が年度末近くであったため、受験期に入った12年生の実施が難しくなった。この結果、2021年度の学校評価アンケートは12年を除く学年での実施となった。

#### (1) I、〔A〕～〔D〕(建学の精神、人格教育、学習指導、学校行事)

満足ポイントの平均は教師63(昨年度62)、児童生徒65(68)、保護者73(77)と、全て満足ポイント60以上で問題のないレベルである。なかでも保護者からは昨年度同様に70以上の高ポイントを獲得しており、初中高各部別でみると初等部保護者の学院への評価が80と際立って高い。学院の骨格となる指導体制全般には概ね良好な評価を受けているといえる。

満足度の序列は、教師<児童生徒<保護者で、例年と同じく教師の自己評価は厳しいことが伺える。

初中高各部比較の推移をみると、保護者評価は(80→70→69)という結果になり、昨年度同様に初等部は中高に比して高く、中高の各評価に大きな差は見られなかった。一方、児童生徒評価は(66→67→63)、教師評価は(65→62→62)となっている。満足ポイントとしては低くはない数値だが、対象年齢が上がるにつれて評価は厳しくなる傾向がうかがえる。〔D〕「行事」についての評価は厳しく、高等部生徒の評価は46(昨年度59)である。コロナ禍にあって高等部生徒は学校行事を例年通りに行うことができず、充実感や達成感を得られなかったという切実な思いが数値に反映していると思われる。

#### (2) II、(意見聴取) III、(情報公開)

IIにおける満足ポイントを平均化すると、児童生徒55(昨年度57)、保護者67(69)、教師52(65)という結果であった。満足度の序列は、教師52<児童生徒55<保護者67であった。また、初中高各部別にみると、児童生徒は高く初<中、保護者は中<高く初、教師は高く中<初であった。保護者の数値は高いものの、児童生徒や教師の満足度は低下傾向である。

IIIにおける満足ポイントを平均化すると、児童生徒66(63)、保護者71(71)、教師64(62)という結果だった。( )内の昨年度のポイントと比較すると、情報公開に対する満足ポイントがどのカテゴリも同じ数値か高い数値になっている。この傾向は昨年度以降、継続されているものである。学院からコロナや熱中症等、児童生徒の安全対策を含めた様々な情報が「お知らせ」やメール、HPやGoogle classroomなどの各種媒体を用いて積極的に発信されており、児童生徒・保護者・教師が概ね満足できる情報共有ができていたとかがえる。

#### (3) IV、(安全対策)

IVにおける満足ポイントを平均化すると、児童生徒77(79)、保護者78(82)、教師70(73)という結果であった。昨年度までは前年度の数値を上回る結果がでていたが、2021年度は昨年度よりいずれも若干ポイントは下がった。それでもガードマンによる不審者対応、ガードマンによる登下校時の送迎車の誘導、送りの車やスクールバスを降車した児童生徒を安全なエリアへ誘導・見守り、保護者の迎えの車が来る前の駐車場内での児童生徒の見守り、防犯カメラ設置、校舎出入口のオートロック、ガードマン退勤前の校内巡回による施錠確認など。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、校舎1・2階エントランスでの手指消毒、非接触型自動検温器の使用、アルコール消毒の実施、飛沫防止ガードやフェイスガードを使用した授業。校内での密回避、ソーシャルディスタンスを意識した指導や昼食時の黙食。感染症不安による登校自粛者へのZoom対応。各部活動ごとの熱中症対策の策定と取り組みなど、昨年度に引き続き真摯に対応している学院の安全対策や指導体制への高評価とみることができる。

#### (4) V、(12年一貫メリット)

Vにおける満足ポイントを平均化すると、児童生徒 66 (68)、保護者 67 (72)、教師 52 (55) という結果であった。この項目における児童生徒、保護者からはまずまずの高評価を得られているが、教師からの評価は昨年度に引き続いて 60 を下回る結果となり、児童生徒や保護者とのギャップが大きい。昨年度に実施した教師間でのディスカッションでは、コロナ禍に伴う学校行事の分散化、児童生徒の交流減少傾向、教科担当による児童生徒の情報共有化、カリキュラム検討などが意見として出されていた。青山学院大学系属校となってから、各部入試の受験者数が増え、入学者数および学級数が増加している。特に中等部からの入学者については内部進学生よりも外部生の方が多いう学年もある。教師のアンケートでは 12 年一貫教育の内実が薄れてきていると感じる、という意見もあった。学院の全学年が 3 クラス編成となる 2024 年度にむけて 12 年一貫教育の実態を様々な視点から検証していくことが求められている。

現在、学院では初・中高各部の教員が授業力研究所の講師より、授業力向上を目指して研修をうけている。また 5 教科主任を中心に 12 年一貫教育を見据えて学習効果の高いカリキュラムの編成等、シームレスな取り組みを進めている。

#### (5) VI、A (授業の分かりやすさ) B (教材やテキストの工夫)

VI、A (授業の分かりやすさ) について、満足ポイントを平均化すると児童生徒は 67 (66)、保護者は 68 (73)、教師 62 (66) となった。B (教材やテキストの工夫) は、児童生徒は 72 (70)、保護者は 68 (72)、教師は 62 (60) という結果だった。3 年連続して 60 を超える高ポイントを継続した。昨年度の引き続くコロナの影響で、対面授業とオンライン授業によるハイブリッド授業が多かった。そうした授業では、iPad 画面では見にくい、Wi-Fi が不安定、オンラインに入るための ID やパスワードが分からないなど複数の課題が見られた一方、A や B において、児童生徒の評価が昨年度より高くなっており、教師による教材やテキストの工夫が授業の分かりやすさに反映していると思われる。

#### (6) VII、A (親身に相談に乗ってくれる) B (生活指導)

VII、A (親身に相談に乗ってくれる) について、満足ポイントを平均化すると児童生徒は 71 (81)、保護者は 82 (74)、教師 73 (74) となった。B (生活指導) は、児童生徒は 70 (72)、保護者は 76 (76)、教師は 59 (62) という結果だった。A の満足度の序列は児童生徒<教師<保護者となったが、いずれも 70 を超える高ポイントだった。なかでも児童生徒の高等部 80、保護者の初等部 87 と高等部 81 は特に高評価となった。対話を重視し日頃から児童生徒の理解につとめる学院教師の姿勢が高評価につながっていると考えられる。この高評価は児童生徒と学院教師との信頼関係構築の上でとても重要であり、謙虚に受け止めていく必要がある。また B の満足度の序列は、教師<児童生徒<保護者で、昨年度に引き続き教師のポイントが最も低い。現在の学校生活は検温、消毒、換気、三密回避、黙食など、コロナ対策を中心に運営されている。児童生徒の健康や安全を確保するために講じる生活指導の大切さと同時に苦慮する教師の心情を反映したものであると思われる。

#### (7) VIII (ICT)

VIIIは、ICT 機器を利用した授業についてのアンケート新項目である。満足ポイントを平均化すると児童生徒は 71、保護者は 70、教師 66 となった。満足度の序列は、教師<保護者<児童生徒となったが、児童生徒及び保護者は 70 を超える高ポイントだった。一方、教師の数値は初等部・中等部・高等部のいずれも児童生徒や保護者の数値に対して低かった。特に高等部教師の数値は 62 で、この項目では最も値は低かった。全般的には学院が取り組んできた ICT の利用について、概ね肯定的に受け止められていると考えてよいであろう。

## 4 改善への対策

今後、PDCA サイクルに則り、詳細な改善対策を検討、実施していく予定である。ここでは概要にとどめる。

### (1) 12年一貫教育の再編成

2021年度は、昨年度来のコロナ禍で学校行事の中止や延期、修正などが相次ぎ、学院が12年のスパンのなかで検討・実施してきた諸活動が思うようにできなかった。今なおコロナの終息について見通しが立たない状況だが、国や県の指針に基づいてコロナ対策を講じつつ、できうる限り平常時に戻していく方向性で検討していきたい。

また学習指導要領の改訂と実施に連動して、初等部・中等部・高等部ごとの途切れや継ぎ目のないカリキュラムを編成していく。また、その際には教科によっては他教科と連動して横断的なカリキュラムの作成を目指していく。児童生徒が多角的な視点から学ぶことで学習理解をいっそう深め、12年かけて国際社会で活躍のできる人材を養成していきたい。

### (2) 授業の質的向上

初等部、中高等部の時間割を調整し、毎週各教科の教員が会合する教科部会を開催している。教科部会は、児童生徒の情報を共有するとともに、授業経営上、教員が抱えている諸問題を共有して、教員が一人で抱え込むことなく教科として協働で対応し、各教員の授業の質的向上を進めていくことが期待できる。また、教科主任会を不定期に持ち、教科ごとに抱えてる諸問題を共有したり、12年一貫教育を掲げる学院の新カリキュラムの編成に向けて横断的な議論を深めたりするなど、各教科相互に啓発・研鑽し、学院全体の授業の質的向上に向けて取り組む機会となっている。

なお、2022年度は授業学研究所の大矢純氏を招き、勤続年数が数年以内の若手教員を中心に、授業を行うに必要な基本的な技術の修得や学院全体の授業力の向上を期して、授業研修会を行う予定である。

### (3) 児童生徒、保護者のかかわり方の技能向上

アンケート結果で示された児童生徒、保護者、教員からの不満足な点を解消できるよう努めるとともに、自分たちだけでは気づかない不備を改め、児童生徒や保護者と前向きで良好な関係を築いていく必要がある。少人数だからこそその丁寧な指導を大切にしながら、発達段階に応じて児童生徒の自主性を重んじた対応や保護者への協力依頼を心がけることが最重要であり、児童生徒が教員に受け止められ、見守られているという自覚・安心感が得られるよう指導を行っていく。

また、アンケートの回答に対して、教員間のディスカッションを行い、児童生徒への対応についての情報交換の場や意見交換の場を継続的に設けていく。